



日進北小だより

令和8年1月8日

1月号 第9号

電話 048 (663) 1842

FAX 048 (663) 9884



<https://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標：心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する
～自分一 すてきなあいさつ 日北っ子～

児童の学校生活の様子を、
随時更新し掲載しています。
どうぞ、ご覧ください。

自分一 熱く躍動する年にしよう！ ～ 思い込みや流行に流されずに ～

校長 寺越 崇征

新年あけましておめでとうございます。

日進北小学校に関わる全ての皆様の、新たな年のご健勝を心より祈念申し上げます。

今年の干支は丙午（ひのえうま）です。干支の文字にはそれぞれ下のような意味があります。

【丙】「甲・乙・丙・丁」で始まる十干の3番目。生命の力強い成長。「情熱」「決断力」。

【午】草原を颯爽と走る馬。方位は南。「行動力」「躍動」「勇敢」「エネルギー」。

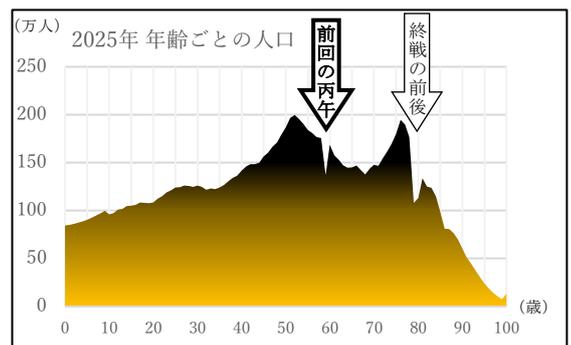


丙は「火の兄」、午は「南の太陽（正午）」、ともに「華やかに燃える」意味をもち、丙午の年は2つが重なることで「力強く情熱的に躍動する年」となります。今年、ミラノ・コルティナ冬季オリンピック・パラリンピック（2月）やワールドベースボールクラシック（3月）、FIFA ワールドカップ北中米大会（6～7月）などの開催が予定されている年でもあり、選手たちの活躍、とりわけ日本人選手の躍動に期待が高まります。

そして、すべての日北っ子たちにも、数え切れないほどの活躍の場があるはず。スポーツに限らず、学業において、文化芸術面において、友だちや先生との協働生活において、等々。どの分野でも力強く躍動する日北っ子の姿をたくさん見られる、熱い丙午の1年間になることを、大いに期待したいと思います。

さて一方で、江戸から昭和期の「丙午」には、よくない迷信が付きまといてきました。「陽の火」の力が強すぎるから、火災をはじめとする大きな災害が起こりやすい年になる、だとか、この年に生まれた女性は「情熱」がありすぎるあまり、自己主張が強く気性が激しくなる、だとか…。そのような迷信が一般に信じられ、丙午の年は子どもを産むことを控えるという現象が起こっていました。下の年齢ごとの人口グラフを見ると、前回の丙午であった1966（昭和41）年生まれの方の数が、前後の年と比較して著しく少ないことが分かります。この現象が一部地域だけのものではなく、広く全国に広まっていたことも想像できます。さらに、この丙午の年に生まれてきた女性は、勝手に気性が激しいと決めつけられるような偏見や人権侵害もあったといえます。

この迷信の出どころは「思い込み」と「流行」だったと言われています。江戸の街はもともと火災が多かったことでも知られていますが、これが丙午の「火」と結び付けて、この年に特に火災が多いと人々が思い込んでしまったこと。江戸時代に流行した浮世草子「好色五人女」（井原西鶴作）に出てくる丙午生まれ（諸説あり、信憑性は低い）の女性が、思いを寄せる人に会いたい一心で自宅に放火をして火刑に処された、というストーリーが世に広まったこと。どちらも他人の気性に影響を及ぼすとは全く思えない事象であるにも関わらず、多くの人が丙午生まれの女性に勝手なイメージをもってしまったというのです。そもそも、その年に生まれた女性が総じて気性が激しかったら、日本は大変なことになっていたでしょう。私がこれまで出会ってきた丙午生まれの方々は、他の年代同様に素敵な方々ばかりです。普通に考えれば、こんな迷信はおかしいと誰にでも分かるはずなのですが…。



データは「国立社会保障・人口問題研究所 HP」より

情報網が現代ほど発展していなくて迷信が広まりやすかった時代の話とはいえ、江戸時代の迷信が高度成長期の出生数に大きな影響を与え、無意識に人権を侵害していることは、人の心の弱さや危うさを表しています。現代でも気を付けなければ、同様のことが起きかねないように感じます。インターネットなどから得た情報は正しい、と容易に思い込んではいないでしょうか。SNSなどで流行していることを、真似することが正しい（自分もやらないとおかしい、知らない人はおかしいなど）と容易に信じ込んでいないでしょうか。

丙午である今年、日北っ子には「思い込み」や「流行」に容易に流されることなく、自分の頭でしっかりと考えて、熱く情熱的に躍動する1年にしてほしいと思います。

皆様の令和8年も、熱く躍動する1年になりますように。今年もどうぞよろしくお願いたします。